

Add Board Governance Policy, Article 10 (Actions on Behalf of the Board) Brooks

Board ガバナンス方針、第 10 条(Board を代表する行動)を追加する

理由

Rules committee に提出された規則の変更は、もともと「Board 指令」として指定されており、Board 全体がその提案を承認しているという推論を含んでいる。しかし、Board のメンバーが提案された提案を聞いたことがあるとは限りません。以下の条文を Board ガバナンス」に追加することを提案する。

第 10 条を追加する。

第 10 条 -Board を代行する行為

TICA By-law 第 24 条は、会員が本協会の付則を改正または修正するための提案を提出することができるように定めている。Show Rule/Registration Rule 内の対応する規定も同様に定めている。Standing rule では、会員が Rule や方針の追加や修正の提案を提出することができる。

長年の慣行では、会員に情報を提供するために、提案者の作成者について言及することが行われてきました。時には、特定の提案の検討中に、Board は、言葉の修正あるいは明確化のために、提案を Rule Committee に差し戻すことがある。Board はまた、自分たちに代わって特定の提案を作成するよう、Rule Committee に正式に要請することができる (Rules Committee for the behalf to develop a specific proposals)。

方針 : 特定の提案の検討中に、Board が言葉の修正や明確化のために提案を Rule Committee に戻した場合、あるいは Board が彼らに代わって特定の提案を作成するために Rule Committee を要請する行動を正式に取った場合、結果として生じる提案は、“Board 指令 ”という名称を通じて Board に帰属させることができる。個々の Board メンバーによって行われた要請は、「Board 指令」とはみなされず、個々の Board メンバーに帰属することになる (訳者注:「Board 指令」とは、Board メンバーによって行われた要請を指す)。

Rule Committee のコメント

1. “提案された変更の影響を受ける他の規則と、意図された意味を伝えるために適切な用語が使用され、全体的に用語の統一が図られるようにする ”について なし
2. 提案のメリット(またはその他)についての意見 (Standing Rule106.4.1.1 に従った「提案の審査」)。
 - (A)極めて簡単だと思う。
 - (B)問題なさそうに見える
 - (C)良い明確化だと思う
 - (D)より透明性が高くなることに同意
 - (E)良いことだと思う、付け加えることはない

新 Registration Rule33.10 の追加、定義の修正、34.3(新色プロセス)の修正

理由

– TICA には、新種を追加するためのプロセス、および既存の品種に新特徴を追加するためのプロセスが明確に定義されており、これには現在その色を受け入れていない品種に既存の色を追加することが含まれます。TICA には、UCD に新しい色を追加するための同等のプロセスが定義されていません。

– New Colors の可能性は常に高まっています。最近、私たちは Bengal に Charcoal を、Siberian/Kurilian/Toybob,に CORIN を、そして UCD に Karpati を追加しました。今後もさらに増えることが予想され、私たちはブリーダーのために、コンピューターシステムの制約を受けない、理解しやすくフォローしやすいプロセスを必要としています。

– ルール34は、制限があること、そして、新色が UCD に追加されたからといって、それが必ずしも championship competition に受け入れられるとは限らないことを明確に示しています。例えば、Mocha は UCD に登録されていますが、championship competition には認められていません。しかし、それを示すものは何もありません。

このプロセスでは、UCD にある championship competition に参加できないカラーに Provisional を追加する必要があります。Provisional カラーのブリーダーは、そのカラーを championship competition に進めるために、新色プロセスの第2段階を完了させる必要があります。

ニューブリードを追加する方法はさまざまですが、ニューカラーについても同じことが言えるはずです。

1. よく特性化された遺伝子と、公表されたシーケンス(続いて起こる)変異体
2. 他の WCC 組織から、TICA と同等の基準を持つ色彩を譲渡された場合。

TICA の標準と同等の標準を持つ他の WCC 団体からの譲渡色

3. その他、特定の品種の突然変異から発生し、猫の個体群に新たに確認された色。

特定の品種における突然変異、または domestic population における自然発生的な突然変異に起因するもの。

1. 最初の 2 つはファーストトラックで、3 つ目はフルプロセス(全行程)で行います。

新色を使用する複数の品種は、New Trait class(NT)に出陳することができ、品種間の合計が要件を満たすようにカウントされます。現在では、複数品種の使用や、新色を使用する各品種が NT の要件を満たさなければならないかどうかは規定されていない。

新色開発の最前線にいる登録は、色の開発作業から登録料を得ることができる。TICA は、登録料収入を促進し、キャットファンシーにおけるリーダーとしての TICA の評判を強化するために、ニューカラーを追加するための明確で柔軟かつ積極的なプロセスを文書化する必要があります。

このルール変更を可能にするために、TFMS とエントリークラッキングシステムは、UCD に正式に追加される前に猫を NT で見せることができるように、登録プロセス中に新色(すなわち new trait)を識別するための新しい「その他」フリーテキストフィールドの追加を許可する必要があります。

Reg Rule 31.7 を改正する。

31.7 ブリードアドバンスとニューカラーズアドバンスにおいて、「積極的な繁殖」とは、申請日以前の2年間に少なくとも1つの子猫を繁殖したと定義されます。もし、子猫やキャットリーが共同で所有されている場合、必要なブリーダーの数には、一人のみが「積極的に繁殖している」とカウントされます。

Reg Rule 31.8 を追加する。

31.8 新色 - 猫の色彩に影響を与える新たな突然変異の結果である。突然変異は、特定の品種、複数の品種、または **domestic population** で発生する可能性があります。例えば、unique Color, Agouti Shift Modifier, または Pattern Effect. が挙げられるがこれらに限定しない。

関連する Standing Rule 301.8 を追加する。

301.8 新しい色の例としては、以下のようなものがある。

- Mocha: albino 系の対立遺伝子に起因する色
- Brown Marble Charcoal Bengal: 品種固有の突然変異によるパターン作用、影響
- Blue Tortie Karpati: **domestic** で発生したパターン作用の突然変異
- Black Gold CORIN Tabby: 3 品種固有 - Agouti Shift Modifier

1, Reg Rule 第 34.3 条を改正する。

34.3 制限事項 登録のためにある色と品種の猫を受け入れても、championship competition への参加資格を意味するものではありません。登録のために認められた新色は、新色プロセスを完了するまでは、必ずしも championship competition への出陳を認めない(championship competition のために認められた色のリストについては、TICA Show Rule、Reg Rule、Standards および UCD(Uniform Color Descriptions)の該当箇所を参照すること)

新しく 33.10 を追加し、既存の 33.10 セクション(および相互参照)を 33.11 に改番する。

33.10 UCD に新しい色の変異を追加する

33.10.1 Breeder が新色を扱うことを Genetics Committee に通知したとき。

33.10.1.1 Genetics Committee は、新色の名称について Breeder と協働する。Breeder が既にその色に取り組んでいる場合、Breeder に現在使用されている名称を通知する

33.10.1.2 Genetics Committee は、TICA のシステムに追加する新色の名称をオフィスに通知する。

33.10.1.3 オフィスは、新しい色彩名を追加する。これにより、猫はその色で登録され、New Traits class クラスにその他または新色名で表示することができる。

33.10.1.4 Genetics Committee は Judging Administrator に通知しジャッジに新色を通知することができる。

33.10.2 新色プロセスの選択

- 33.10.2.1 通常のプロセス。33.10.2.2.のファストトラックプロセス(迅速な工程・処理)の要件を満たさない新色。
- 33.10.2.2 迅速な処理:以下の要件のいずれかを満たす新色。
 - 33.10.2.2.1 遺伝子変異体の特性および配列に関する科学論文が発表されていること。迅速な申請時の裏付け資料として、英文論文のコピーを Genetics Committee に提出すること。
 - 33.10.2.2.2 新色は、少なくとも TICA と同等の基準を持つ他の WCC 加入協会で、championship に受け入れられる。
- 33.10.2.3 ファストトラックプロセスを満たした新色は、暫定版として UCD に追加され、ジャッジが新色を見ることを保証するために、通常プロセスのステージ 2 に直接進みます。

- 33.10.3 New Color Regular Process Stages (新カラーレギュラープロセス段階)
 - 33.10.3.1 Stage 1: 新色を暫定新色として UCD に追加するよう申請する
 - 33.10.3.2 Stage 2: 暫定新色を Championship の地位に昇格させるための申請

- 33.10.4 正規のプロセス ステージ 1: 新色を暫定状態として UCD に追加するための要件。
 - 33.10.4.1 新色の少なくとも 5 つの個体が、**New Traits class** に、その他として、または割り当てられた色名で出陳していること。
 - 33.10.4.2 少なくとも 5 名の優良な TICA 会員が、その新色を積極的に繁殖またはショーに出していること。
 - 33.10.4.3 Provisional への昇格申請前の 3 年間に、新色を有する猫が最低数登録されていること。
 - 33.10.4.3.1 登録頭数が 100 頭未満の品種では 5 頭、または 33.10.4.3.2 登録頭数が 100 頭以上の品種では、登録頭数の 5%、ただし 25 頭を超えない。
 - 33.10.4.3.3 複数の品種が協力して受入を行う新色については、合計 10 頭の猫が必要である。
 - 33.10.4.4 暫定版への移行を要求する電子申請書は、Board meeting の 120 日前までに Genetic committee および Rule Committee に送付するものとする。この申請書には、新しいカラーを繁殖または出陳している優良な TICA 会員 5 名の署名が必要である。
 - 33.10.4.4.1 UCD の色彩説明案は、申請書に含まれるものとする。
 - 33.10.4.4.2 Standing Rule で規定されている手数料。
 - 33.10.4.5 Board は、その裁量により、新色を承認、不承認又は追加要件を課すことができます。

- 33.10.5 Provisional New Color を Championship に進めるための通常プロセスステージ 2(およびファストトラック申請)。新色を championship に申請するための要件は以下の通りです。
 - 33.10.5.1 New Traits class において、その他として、または割り当てられた色名で示された新色の個体例が少なくとも 5 体あること。
 - 33.10.5.2 新色を積極的に繁殖または出陳している優良な TICA 会員が少なくとも 5 名いること。
 - 33.10.5.3 championship に申請する前の 3 年間に、新色を持つ猫が最低数登録されていること。
 - 33.10.5.3.1 登録頭数が 100 頭未満の品種では 5 頭、または 33.10.5.3.2 登録頭数が 100 頭以上の品種では、25 頭を超えない範囲で登録頭数の 5%。
 - 33.10.5.3.3 複数の品種が協力して受入を行う新色については、合計 10 頭の猫が必要である。

- 33.10.5.1 電子形式の championship 昇格申請書は、該当する Board の少なくとも 120 日前までに、Breed Committee の各 member、及び品種グループの一部である場合はその品種グループの各委員)、Genetics Committee、並びに Rule Committee に送付されるものとする。申請書は、少なくとも 10 名の優良な TICA 会員によって署名されなければならない(申請書は TICA 事務局又は tica.org で入手できる)。
- 33.10.5.1.1 必要な規格の変更は、申請書に記載されなければならない。
- 33.10.5.1.2 Standing Rule に規定される手数料
- 33.10.5.2 Genetics Committee および Rule Committee が、新色の championship への進出申請書を承認した場合、該当する Board Meeting の少なくとも 90 日前までに、Breed Committers Chairs は、承認された申請書をオフィスに提出し、品種部門の投票に付すものとする。申請書には、新色の遺伝的妥当性と生存性に関する Genetics Committee のコメントと、Rule committee のコメントが含まれていなければならない。
- 33.10.5.2.1 すべての色を受け入れ、かつ、domestic **outcross** が許容されると規定する品種は、新色を自動的に受け入れるため、品種投票を行う必要はない。
- 33.10.5.2.2 すべての色を認め、かつ domestic **outcross** での交配を認めない品種は、新色を標準に追加するために品種投票を実施する必要がある。
- 33.10.5.3 承認と記された申請書を受領した場合、オフィスは、関連するブリードセクションの全会員に投票用紙を発行するものとする。投票用紙は、発行日から 30 日以内に TICA Ballot ジャッジに返送しなければならない。ブリードグループの場合、championship に昇格するためには、ブリードグループの各ブリードセクションメンバーの過半数の投票により、New trait が承認されなければならない。投票の結果は、申請書とともに会議の議題に含まれるものとします。
- 33.10.5.4 投票の費用は、投票を依頼した個人が負担するものとする。
- 33.10.5.5 championship 資格への昇格申請の意図の通知は、昇格申請が審理される会合の少なくとも 120 日前に TICA TREND に掲載され、新色に関するコメントをオフィスに転送するよう呼びかけなければならない。
- 33.10.5.6 申請書の提出は、新色を provisional から championship へ移行することを承認したことを意味するものではありません。Board は、その裁量により、New Color を承認、不承認、または追加要件を課すことができます。
- 33.10.6 championship 昇格後の報告 すべてのカラーが良性の効果を持つわけではなく、中には時間が経ってから明らかになる悪性の効果を持つ場合もあります。したがって、ニューカラーがチャンピオンシップに昇格した場合、昇格の日から 5 年間は監視されます。ニューカラーを扱う Breed Committee は、Board 開催日の少なくとも 60 日前までに、Genetic Committee と Rule Committee に正式な報告書を提出します。報告書には、写真、図版、統計、健康状態、繁殖報告、その他関連資料を含めるものとします。

Amend Standing Rule 303.1: Quick Reference Chart for New Breeds.

	Registration Only	Preliminary New Breed	Advanced New Breed	New Trait	New Colorr	Championship
Registrations required for advancement		15 adults 10 litters Must have been recognized for registration for at least 2 years	100 adults: 50 must have a registration code eligible for CH or can produce offspring eligible for CH 25 litters	10 cats if fewer than 100 registered OR 10% of cats registered not to exceed 50 cats	5 cats if fewer than 100 registered OR 5% of cats registered not to exceed 25 cats.	200 adults registered in any full WCC member association of which 50 must be registered in TICA and be potentially eligible for championship
Active Breeders		5 in 3 regions	15 in 5 regions	10 total	5 total	15 in 5 regions
Entries in TICA shows prior to advancement			25 unique cats shown in PNB	10 unique cats shown with New Trait	5 unique cats with New Color shown in Other; 10 unique cats with NewColor shown as NT	25 unique cats in at least 25 WCC shows and at least 10 TICA shows
Entry Class	Not Applicable (can be in hall with approval of show comtte)	Entry in PNB Class	Entry in ANB Class	Entry in New Trait Class	Entry in New Trait Class Other until Provisional then as Color	Championship Class
Judging Procedures	Not handled	Judged in PNB Class	Judged in ANB Class	Judged in NT Class	Judged in NT class	Judged for championship Awards
Awards		Class awards and PNB Merit Fina	Class awards and ANB Merit Final	Class awards and NT Merit Final	Class awards and NT Merit Final	Color, division, breed and final awards
Annual Award Scoring	Not Scored	Not Scored	Not Scored	Not Scored	Not Scored	Scored for Annual Awards

関連する **Standing Rules** を追加する。

303.10.4.4.2 通常のプロセスに従った新色については、ステージ 1 申請料として 25 ドルを支払う。

303.10.5.1.2 通常のプロセスに従った新色については、手数料として 25 米ドル。ファストトラックプロセスを利用した申請の場合、処理手数料は\$50とする。各料金は、申請時に必要となります

Rules Committee のコメント

1. “変更案の影響を受ける他の規則と、意図する意味を伝えるために適切な用語が使用され、全体として用語の統一が図られるようにするため”について

(A)根拠は、“新色を出陳する複数の品種は、新特性クラスに出陳することができ、品種間の合計が要件を満たすためにカウントされる”とあります。私はこの解釈には全く同意できません。私の解釈では、NT のプロセスは、1 つの品種にのみ novel trait を追加するものであり(33.9 に記載されているプロセスで証明されています)、各品種は引き続き個別に対応すべきであると考えています。(新 Reg Rule 33.10 など 9 ページ中 6 ページを追加)
提案者が NT のプロセスを修正したいのであれば、それは別の変更として行うべきで、この変更案と一緒にすべきではありません。Genetic Committee は依然として board の諮問機関であるため、Fast track プロセスには、新色を UCD に追加することを board が承認するという段階が欠落しています。

NT と New color の比較を見ると、新色の要件が NT の要件より低いことが非常に気になります。Provisional Status の要件が低いことは理解できますが、ステージ 2(つまりチャンピオンシップ)の要件は NT の要件と一致すべきと思います。繰り返しますが、この提案は 34.3 を変更し、品種部門の投票なしに自動的に新色を追加する提案を反映したものです。例えば、AC/ACL に新しいカラーが domestic population を通じて追加されることが可能であるからといって、そうあるべきとは限りません。それが 34.3 の目的だったのです。

さらに、私は、この規則変更案は、チャンピオンシップの品種のスタンダードの変更を規定する By-law 118.2 に抵触していると考えています。スタンダードは「すべての色」と言うかもしれませんが、新しい色、Agouti Shift Modifiers Pattern Effects を含めることは、その品種のスタンダードに含まれる色を事実上変更することになるのです。

(B)この断片(33.10.5.3.1~33.10.5.3.3)は、文字通り、300 頭の登録猫を持つ 1 つの品種が新しい色を認識する場合、15 頭(5%)の猫が必要だということを意味しています。一方、300 頭の登録猫からなる 3 品種(合計 900 頭)が新色を認識する場合、10 頭で足りることになります。この場合、最低でも 25 匹は必要です。最後の選択肢は、多品種でも、それぞれ 100 匹以下の猫であることを想定していたのではないのでしょうか。また、一般論として、ステージ 1 とステージ 2 の要件は全く同じである。Stage 1 から Stage 2 への申請と同じ情報をコピーして、Stage 2 から Championship への申請として送ることを、申請者が止める理由は何でしょうか？私には意味がわかりません。

2.提案のメリット(またはその他)についての意見(すなわち、常設規則 106.4.1.1 に従った「提案の審査」)

(A) 33.10.5.2.1 と 33.10.5.2.2 も紛らわしいです。ここでは、どの品種のセクションに投票することになっているのでしょうか。それとも、TICA の「全色」品種のうち、色彩を追加するよう要請したものだけでしょうか。

もし後者であれば、(同時に行われる多くのポールが基本的に 1 ポールのような価格でない限り) 10 数種の品種のポールに(33.10.5.4 の言うように)本当に依頼者に支払わせることになるのでしょうか。また、これは基本的に、「オールカラー」でない品種は、「新色」プロセスを経て、すぐに「NT」プロセスに戻らなければならない、「オールカラー」品種は、その品種における新色の認定についてすぐに投票することができる、ということです。あるいは、この部分全体は、TICA のすべての「オールカラー」品種に投票するよう求めていると解釈してはいけませんが、それならなおさら、私にはよくわかりません。この提案全体は、品種固有の色については全く触れていません。新しい色の状態を明確にする」という提案は、少なくともそれについて言及しています(少なくとも、34.3.2 の遺伝子検査による追加制限を私はこのように解釈しています)。Bengal の charcoal のように、明らかにその品種の野生の祖先(ALC)から「遺伝的に受け継いだ」品種固有の色を追加する場合、その色がすべての品種に普遍的に認められ、利用できるようにすることは、あまり意図していませんし、望んでいないのです。もし、domestic cats の中で自然発生した新しい色(Karpati pattern のような)を加えるなら、「オールカラー」品種が「オールカラー」のままでもいいかどうか、一般的に利用可能であるかどうか投票することは理にかなっていると思います。この提案全体は、いくつかの明確化が必要な気がします。

(B)皆さんの様々なコメントに同意します。もし、この変更案が私たちでさえ混乱させるものであれば、一般会員はどうやって自分たちで解決するのでしょうか

(C)私はこれを断片的に読まなければなりませんでしたが、それでも長すぎて混乱し、新しい色に取り組んでいる人々を本当にイライラさせることになると思います。もう少し簡略化できないでしょうか？

(D)私は(C)に賛成です。何度も読み返したが、どうしても理解できない。もっとシンプルにする必要がある。

(E)再提出のため、提出者に返却する。私たちが意図を理解できないのであれば、どうやって会員にそれを期待するのか？

(F)本当に余計な表現というわけではないが、同意する。

(G)新しいコメントはありません。すべてに同意します。

(H)これらの提案が不必要に複雑であり、広く会員に理解されるよう簡素化されるべきであることに同意する。

(I)この提案は、言葉が多すぎてよく理解できません。何度も読み返した

(J)私も、この提案は長くて複雑で、簡単に理解するのは難しいと考えています。

(K)(C)に同意せざるを得ない - あまりにも混乱し、複雑すぎる。

Amend Reg Rule 34.3 (Clarify status of new colors) – Shelton/Bright/Abrahams

Reg Rule 第 34.3 条の改正 (新色の位置づけの明確化)

The current Limitations section is unclear:

現在の制限の項目は不明瞭である。

この文言は、現在認められていない品種に既存の色を追加することに対応している(例:ロシアンブルーをホワイトとして登録することはできるが、チャンピオンシップに出品することはできない)。

複数品種にまたがる新色の追加には対応しない(例: 遺伝子検査により Siberian, Kurilian Bobtail & Toybob に限定される CORIN、domestic population に由来する Karpati)。

現在の規則では、UCD に新色が追加された場合の対応をしていない。これは、すべての色を受け入れる品種が、新色を championship に受け入れることは、自動的にその色を championship に受け入れると認識することができ、一方、他の品種は、これを異なって解釈し、各品種が NT を通じて個別に新色を追加する必要があると考えることができるので、混乱を招くことがあります。既存の規則ではこのようなことはありませんし、既存の規則ではこのようなことはありません。

[**Rules Chair** 注記: 現行の Reg rule 34.3 は、新色を Championship の対象から明示的に除外しています。そのカラーを進歩させるために、現在の Championship で NT のプロセスを使用することが暗黙の了解となっています(明確ではありませんが)。また、現行 Rule における「カラー」という用語が、Agouti Shift Modifier Pattern Effect.にも適用されるべきが明らかではありません]。すべての色を受け入れている品種が、UCD に追加される新色を含むことを望むとは限らない。遺伝子検査によって確立された、その品種における新しい色の存在は、その突然変異が発生した特定の品種に新しい色を限定することが適切であることを示すかもしれません。新色は動物の遺伝子プールを経由して入ってくることもあり、そのような新色については家畜とのアウトクロスを認めている品種にその色を許可する必要があります

次の表は、どの品種(すべての色を受け入れる)、および domestic との交配が許可されている品種が自動的に新色を受け入れるかを示しています。

Breed	Accepts All Colours	Allows outcross to Domestic	Karpati Example – Auto Accept
ABT/ABS	YES	YES	YES
AC/ACL	YES	YES	YES
DSK	YES	YES	YES
HG/HGS	YES	YES	YES
JB/JBL	YES	YES	YES
LP/LPS	YES	YES	YES
MK/MKS	YES	YES	YES

Rule 34.3 を改正する。

34.2.3 問題の猫の色は、協会に登録が認められている色ではない。このような場合、Genetics Committee 及び TICA Board の承認を経て、その色は新たな突然変異として認められるものとする。Reg Rule(上記 34.2 参照)の改正が行われ、色名と色コードが割り当てられるものとし、その改正は公式ニュースレターの次号に掲載される。

34.3 制限事項

34.3.1 登録のためにある色と品種の猫を受け入れても、championship への参加資格を意味するものではない。登録のために認められた色彩は、必ずしも当該品種の championship のために認められたものではない。(championship のために認められた色のリストは、TICA ショーRule、Reg Rule、Standard および Uniform Color Descriptions の該当箇所を参照)

34.3.2 UCD に新しい色が追加された場合、遺伝学的検査による追加的制限が適用されていないことを条件に、オールカラーを受け入れると指定し、かつ許容される異種交配として Domestic LH/SH を指定したすべての品種に自動的に受け入れられます。

34.3.2 UCD に新しい色が追加された場合、遺伝学的検査による追加的制限が適用されていないことを条件に、オールカラーを受け入れると指定し、かつ許容される異種交配として DomesticLH/SH を指定したすべての品種に自動的に受け入れられます。

34.3.2.1 オールカラーを認めているが、DomesticLH/SH の交配を認めていないが、新色を含めたい品種は、新色の突然変異がその品種に由来していない限り、NT プロセスに従う必要があります。このスタンダードは、NT プロセスに従い、Breed Section が新色を含めることを決議するまでは、新色を除外するように修正されます。

34.3.2.2 今日、オールカラーを受け入れていない品種は、その品種の UCD に追加された新しい色を含めたい場合、その品種が受け入れたものに新しい色を追加する新特性プロセスに引き続き従います。

Rules Committee のコメント

1、“変更案の影響を受ける他の規則と、意図する意味を伝えるために適切な用語が使用され、全体として用語の統一が図られるようにするため”について

(A)もし、純粋な「色」ではなく、このルールがア Agouti Shift Modifiers Pattern Effects にも適用されるのであれば、これは 31.x に定義として追加される必要があります。この提案は、34.3.2 の意図が、新しい色が、いくつかの品種の NT プロセスを経ずに自動的に championship の資格を得ることであることを明確にしていません。率直に言って、私はそれは容認できると思います。新しい色が(例えば)AG/ACL に追加することが可能だからといって、そうすべきとは限りません。それが 34.3 の目的だったのです。34.3.2.1 案では、新色を除外するために規格を調整する際の管理負担が大きいと思われる。さらに、この規則案は、以下の細則 118.2 に抵触すると考えます。

(B) 34.3.2 項の「ただし、遺伝学的検査の結果としての追加的な制限が適用されていない場合に限る」は、私には曖昧すぎる。その制限は具体的にどのようなもので、どのように表示されるのでしょうか。多分、「新しいカラープロセス」の提案の中で説明されるべきなのではと思うのですが、そうならないことを除けば。これは、Bengals の charcoal のように、非常に「遺伝的に品種特異的」な色のためだと思いますが、どこかに明記される必要があり、どちらの提案にも書かれていません。

2. 提案のメリット(またはその他)についての意見(すなわち、Standing Rule 106.4.1.1 に従った「提案の審査」)

(A) 2つの考え Altai や Topaz の突然変異が多く品種に含まれているため、目の色に対処する必要があると思われる。domestic の交配が許されている品種に限定することの唯一の問題は、多くの品種が domestic との交配が許されていない品種を使用していることです。

B) 私が誤解しているのかもしれませんが、許可されていない Domestic のアウトクロスを使用した場合、その子孫はいずれにせよ championship には不適格となるのではないのでしょうか？

(A) 第一世代では一しかし、遺伝子が導入されれば、3世代後には SBT となるはずである。

(C) これについては、少し混乱しています。UCD に新しい色を追加することで、彼らが何をしようとしているかはわかりますが、なぜ新しい色が NT のプロセスを経る必要があるのかがわかりません。例えば、SI ブリードグループが私たちの尻尾を掴んで、希釈修正である caramel colors の提案をした場合、私たちはたくさんの猫を NT にかけてあげなければならないということでしょうか？

(A) この質問は、現在すべての部門のすべての色を受け入れている品種に対するものです。これらの品種に関するポイントは、潜在的には、新しい色が UCD に入れられたときに、それらの品種ごとに NT を通過する必要はないということです。例えば、私たちは Karpati を追加したばかりです。ですから、例えばデボンレックスなど、すべての部門のすべての色を受け入れる品種は、理論的には Karpati pattern を受け入れるために NT を通過する必要はないでしょう。

(D) この変更は、domestic 交配をした猫とそうでない猫を区別するもので、もし domestic 交配をした場合は、NT を受ける必要はありません。もし、domestic での交配がない場合、新しい色の突然変異がその品種に由来していない限り、その色を受け入れるために NT を行う必要があります。ですから、もしこのルールが可決されれば、デボンレックスは Karpati color を受け入れるために NT を受ける必要があります。

(C) つまり、(A)は理論的には DR が New Trait を通過する必要はないと言っていますが、(D)は通過すると言っているわけです。このことから、この案がいかに分かりにくいかが分かります。

(A) いいえ - 提案がなされた理由を説明したのです - 現在のルールでは - すべての部門のすべてのカラーを受け入れている品種には、新しいカラー/パターンの制限はないでしょう。

(E)申し訳ありませんが、私はこの規則をそのように解釈していません。34.3 には、登録のための認定は、championship の認定を意味するものではないと明記されています。次に、規則 33.9.1 には、確立された championship ブリードの NT は、NT クラスで出陳されるべきであると明確に記述されています。例えば、Karpati は明らかに形質であり、TICA にとって新しい形質です。全部の部門の全部の色を受け入れている品種には、新しい色・模様の制限はないだろう」という考えは、実際にそれを許す TICA ルールがない「伝統的」な見解のように思われます。もし、そのようなルールがあるとお考えなら、私(たち)が探しても見つからなかったので、明記してください。また、(C)の最初の質問に答えると、SI/BA/OS/OL 品種グループも希釈修正剤を追加するために NT を通す必要があります。私は、現在の規則を明確にすることが有用であることは理解していますが、この解決策は複雑すぎると思います。私は、新しい色 (Agouti Shift Modifiers Pattern Effects を含む) は、どの品種でも Championship カラーとして認められる前に、NT のプロセスを経るべきであるという条項を加えることがよりシンプル (かつ明確) であると思います。

(F)全色」と domestic のアウトクロスを受け入れている品種は、自動的に色が追加されるべきではないでしょうか。他の「オールカラー」品種と同じように投票するか、全員に「NT」のプロセスを踏ませるか、どちらかです。私は、両方の解決策(オールカラー品種に投票を行うか、全員に NT のプロセスを経させるか)の長所と短所を見ることができます。どの品種にも「default"で」新色が追加されるべきなのは、私には理解できません。

(G)私はこれを紛らわしいと思いました

(H)この提案は何度も読み返したが、どうしても理解できない。もっとシンプルにする必要がある。

Amend Show Rule 22.1.2 (Show Dates) – Goulter/van Mullem

Show Rule 22.1.2(ショーの日付)を修正する

根拠

一般的に、ショーが増えることは、出陳者が 1 年間のさまざまな時期にショーに参加する機会が増えることを意味し、誰もが喜ぶことです。しかし、ショーを開催することは、ほとんどのクラブにとって大きな経済的リスクとなり、特に 2 つのショーがあまりにも近い時期に予定されている場合はなおさらです。現在、私たちのルールは、ショーが同じ週末に予定されている場合にのみ適用されます。この提案は、2 つのショーが互いに 1 週間以内に予定されている状況をカバーする規則を追加することです。これは、同じ地域の出展者人口をターゲットにした 2 つのショーを防ぐのに役立ちます。多額の資金を持つクラブは損失を出すことができますが、小さなクラブはそうもいきません(最終的には閉鎖せざるを得ないかもしれません)。

Show Rule 22.1.2 を修正する。

22.1.2 開演日 クラブが RD(リジョナル・ディレクター)にショーの日付を希望する場合、書面にてその日付を要求することができます。30 日経過しても RD から返答がない場合、クラブは事務局に要請書のコピーを提出し、事務局を通じて興行日程を決定することができます。

22.1.2.1 RD は、要求された週末に 500 マイル(805 キロ)以内あるいは同じ地域で既に予定されている TICA ショーがある場合にのみ、クラブの特定のショー日程を拒否することができます。

22.1.2.2 同じショーウィークエンドに複数のショーリクエストがある場合、以下の A および B の両方を満たす場合に限り、互いに 500 マイル(805 キロメートル)以内でショーを開催することができます。

A. ショーマネージャーからの書面による許可。

B. A. ショーマネージャーの書面による許可 B. 複数の地域からのショー要請がある場合は、RD または RD の書面による許可。最初にショーの開催日を申請したクラブが、ショーの開催を許可されます。

22.1.2.3 RD は、要請されたショーから 200 マイル(321 キロ)以内、かつ他の 10 日間からそれぞれ 1 週間以内に、既に予定されている TICA ショーがある場合、クラブの特定のショー日程を拒否することができます。

22.1.2.4 ショーウィークエンドショーにおいて、1 週間 10 日以内に複数のショー開催希望がある場合、以下の A 及び B の両方を満たす場合に限り、当該ショーを 200 マイル(321 キロメートル)以内で開催することができます。

A. ショーマネージャーからの書面による許可、及び

B. A. ショーマネージャーの書面による許可 B. 複数の地域からショーの要請がある場合は、RD または RD の書面による許可。最初にショーの開催日を申請したクラブが、ショーを開催する権限を有します。

22.1.2.3 5 同一日に予定されているショーの一方又は両方が、ペット博が開催日を決定するペット博の一部であり、かつ、そのショーの出陳数が最大 125 点に制限されている場合、22.1.2.1 及び 22.1.2.2 及び 22.1.2.4 の規定と制限は適用されないものとします。

Rules Committee のコメント

1 “変更案の影響を受ける他の規則と、意図する意味を伝えるために適切な用語が使用され、全体として用語の統一が図られるようにするため”について

A)月曜から日曜までが 1 週間で、次の週末は新しい 1 週間だから、別のショーがあってもいいのではと、当事者が正論を言うかもしれないので、1 週間以内の予定を 13 日以内に変更する必要があると思います。

(B)その後の週末を言うことができる

(C)私は「その後の週末」という提案に好感を持ちました。

(D)そして、(A)の意見に賛成です。ショーとショーの間は、13 日以内と表現した方が良いでしょう。

(E)文言を調整する場合、金曜日に行われる 1 日限りのショー (alternate ショーは別のショーとみなされるため) と、次の「週末」に行われるもの (すべてのショーが金・土・日に行われるわけではない) もカバーできるようにする必要があります。13 日間ではうまくいかないと思うのですが、2 週間をカバーできるのでは？

(F)技術的には、その提案に何の問題もありませんが、混乱を避けるためにタイミングの表現を変更します。「9 日以内」であれば、1 つのショーが土曜日のみ、もう 1 つが来週末の日曜日のみという場合でもカバーできますし、2 週続けて 3 日間のショーが行われることを妨げるものではありません。

Rules Chair の注記

1. 当初の表現は、提案者の同意を得て、「かつ互いに 1 週間以内」から「かつそのショーから 10 日以内」に修正された。この 10 日間という期間は、該当するショーの日付の前後両方に適用されます。

2. 提案のメリット(またはその他)についての意見 (**Standing Rule** 106.4.1.1 に従った「提案の審査」)。

(A)500 マイルのルールをなぜ変更したのですか？

(B)なぜ 500 マイルでなく 200 マイルなのか？しかし、私は、クラブがお互いに潰しあいにならないようにする方法として、この方法を好んでいます…。私たちの地域 (SW) と MP 地域のショーでは、いつも 2 週間のスパンを保つようにしています…週末が重なると、両方のクラブがダメージを受けるようです。

(C)個人的には、これはクラブが解決すべき問題だと思います。キャットショーのために手頃な価格で利用できる会場は限られているのです

(D)クラブに解決させるという(C)に賛成です。200 マイルというのはかなり恣意的です。同じ場所で 1 週間おきに 2 つのショーが開催されるのと、500 マイル離れた場所で同じ時期に 2 つのショーが開催されるのが同じくらい競争率が高いという証明はないのです。2 週続けてのショーに制限をかけるようなルールはありません

(E)提案者に聞いてみた。200 マイルでは、EW のような地域で連休にショーができない。そのような地域で 500 マイルは大きすぎる。

(F)はい、地理的に狭い地域では、距離を短くすることはとても理にかなっています。そして、スカンジナビアのように、TICA のショーが出陳者の最優先事項ではない地域でも、意味があることがわかります。北欧のクラブは、収支を合わせるために FIFe の出陳者を必要としており、200 マイル以内の距離のショーは、全く同じ地域の出陳者グループと競合します。例えば、1 つはコペンハーゲン地域で、もう 1 つはスウェーデンの南部で開催される 2 つの TICA ショーに、2 週続けて行くことはないでしょう。

(C)また、他の地域でも 200 は小さすぎるでしょう。

(E) 22.1.2.4 が追加された理由と思われる。関連するショーマネージャーと RD が同意すれば、ショーを許可するオプションがあります。これは確立されたプロセスであり、距離を縮めることに問題はないと思います

(F)内容的には、クラブ B がクラブ A のショーに近い場所で、クラブ A より 1 週間早くショーを予定することで、クラブ A の「雷」とゲート(出陳者もいるかもしれませんが、主にゲートだと思います)を盗むことを防ぐためだと理解しています。そのため、200 マイルという制限を設けているのですが、これは、ショーを見るためにこれ以上遠くへ行く来場者はいないためです(ほとんどの人はそこまで移動しないでしょうが、どこかで制限を設ける必要があります)。もし、このルールに 500 マイルが含まれていたら、3 番目か 4 番目のヨーロッパのショー(EW だけでなく、EN と ES のことです)は、日付を得るために他のヨーロッパのショーと契約を結ばなければならなくなります;) だから、この新しい追加は、スケジュール規則の元の部分とは異なる制限を持つことが合理的だと思うのです。

(G)広い範囲をカバーする地域があります。例えば、NW 地域のカルガリーは、バンクーバーから 1,000km も離れています。昔はエドモントン(カルガリーから車で 2~3 時間、距離は 200 マイル以上)で翌週にショーがあり、出展者は休日を利用していましたから、人々は長い距離を移動するのです。アラスカのアンカレジは、シアトルから車で 42 時間かかりますが、誰かが 500 マイルも移動してショーを見に行きますし、私も 95%は 200 マイル以上移動してショーを見に行きます。クラブが決めることです。また、ショー会場やホテルの確保に苦労しているので、手に入れたものを使わざるを得ないし、冬場は飛行機を使わなければならないこともよくあるんだ。200 マイルに変更することに反対はしません。

Rules Chair の注記

議論から、来場者の経済的影響が地域によって異なることが明らかになった。しかし、ゲートは多くの要因の一つではあるが、この提案の主な原動力にはなっていない。また、キャンペーン参加者はショーに参加するために長距離を移動するが、キャンペーン参加者でない人はそうでないかもしれないことも明らかであった。ショー(およびクラブ)が生き残るためには、両方のタイプの出陳者のバランスが必要です。

Amend Standing Rule 106.4.1.2 (Genetics Committee Role) – Lorimer/Shelton/Bright

Standing Rule 106.4.1.2 (Genetics Committee の役割) を改正する

理由

遺伝学は、TICA の登録機関としての基盤の核となるものです。この遺伝学的基盤は、組織としての TICA の重要な差別化要因です。今日、遺伝子の研究と知識は飛躍的に成長しています。TICA もそれに合わせて成長し、成長のための戦略的アドバンテージとして活用する必要があります。現在、すべての研究からの情報は組織に流れ込んでいますが、主に Genetics Committee が board に提供するアドバイスのために使われています。私たちは、Genetics Committee がより積極的な役割を果たし、NT や新色の開発において、ブリーダーがより多く関与することを提案します。この変更には次のような利点があります

Board に

- 戦略的差別化要因:なぜ私は TICA のブリーダーから子猫を得たいのか
- 戦略的差別化要因:なぜ私は TICA に登録したいのですか？

Breeders:に

- 取り組み開始時から遺伝子のガイダンスにアクセス可能
- 受入れに関する意思決定の迅速化
- 遺伝情報へのアクセス向上

EO に

- コミュニケーションの改善により、潜在的な変化について早期に情報を得ることができる
- 混乱と不測の事態の減少
- システムの追加や変更に対応できるようになる。

Judges に:

- 変更点に関するコミュニケーションの改善
- NT/NC 開発プロセスの早い段階での情報提供の改善

Standing Rule 106.4.1.2 を改正する。

106.4.1.2 Genetics Committee.

Genetics Committee の任務は、次のとおりとするが、これに限定されるものではない。106.4.1.2.1 品種、繁殖、色、奇形、Reg Rule の変更、または遺伝学の分野におけるその他の事項に関して、Board に助言すること。

106.4.1.2.2 利用可能な最新情報に基づき、NT および新色の追加について board に助言すること。

106.4.1.2.3 NT および新色を開発するブリーダーと協力し、開発プログラムの開始から承認決定までのガイダンスを提供すること。

106.4.1.2.3 NT 及び新色について事務局に助言し、適切なシステムを準備できるようにする。

106.4.1.2.4 ジャッジが認識できるように、NT 及び新色について **Judging Administrator** に通知すること。

106.4.1.2.5 毎年 Winter meeting において、遺伝子研究の更新について書面による年次報告を board に提出すること。

Rules Committee のコメント

“変更案の影響を受ける他の規則と、意図する意味を伝えるために適切な用語が使用され、全体として用語の統一が図られるようにするため”について

Rules Chair の注記

当初提出された案では、諮問と(一部の)権限委譲の両方を行う hybrid committee が提案されていた。規則委員会の総意として、このハイブリッドモデルは不適切であるとのことだった。提案者の同意を得て、この提案は、Genetics Committee が純粋に Advisory Committee.(諮問委員会)として存続するよう修正された。

2. 提案のメリット(またはその他)についての意見(、**Standing Rule** 106.4.1.1 に従った「提案の審査」)

(A)これについては、特に悪い点は見当たらない。Genetics Committee に対する期待をより明確にしたものであり、良いと思います。一般的なコメントとして、TICA は遺伝登録機関でありながら、少し行き過ぎたことをする可能性があるという事実を認識する必要があると思います。私たちは、繁殖と showing が対立する可能性がある地点に近づいています。TICA は、showing「カラー」が「遺伝的」カラーに従うかどうかを決定する必要があるでしょう。私が言いたいのは、ブリーダーが知っていて繁殖に期待することと、人々やジャッジが実際に見ることとの間に乖離が生じるということなのです。

(B) (A)の意見に賛成です。

(C) はい、良いです。

(D) 遺伝情報の提供や、新しい色や形が受け入れられるように品種部門を指導するなど、役に立つとされるものの中には、本来なら彼らがすべきことが含まれています。

Amend Standing Rule 2014.1.1 (Judges' Fees) – Vlach/Dickie

Standing Rule 2014.1.1 (ジャッジ・フィー)を改正する

理由 35年前、Approved Allbreed ジャッジのジャッジ料は、カタログエントリー 1 件につき \$1,000 でした。インフレを考慮すると、2022 年には \$2.45 になり、累積インフレ率は 145%となります。この時点から、AAB ジャッジのジャッジ料が 10%引き上げられ、\$1.10 になっただけです。従って、ジャッジ報酬を調整する時期に来ている。累積インフレ率に合わせることは、クラブにとって負担が大きすぎるかもしれないが、それでも必要なステップである為、私は上記のように以下の妥協案を提案します。ジャッジ料を 45%調整する。同時に、カタログに掲載されている猫ではなく、実際に扱った猫だけをカウントする必要があります。この調整の効果を示す 4 つのビジネスケースを作りました(平均 10%の猫が欠席した場合)

Business Case for Clubs - Current

	#Entries	#Ring(AAB)	Judge Fees	Entry Fees*	Net for Club
Case 1	60	12	792	3900	3108
Case 2	100	12	1320	6500	5180
Case 3	150	12	1980	9750	7770
Case 4	200	12	2640	13000	10360

*Average Entry fee-USD65/cat for 12 Ring show Judge Fee-USD 1,10per cat in catalog

Business Case for club-Proposed Changed

	#Entry	#Ring(AB)	10%Absentees	ActualCat'sJudged	J F1,60	EntryFees*	Net For Club
Case 1	60	12	6	54	1036,8	3900	2863,2
Case 2	100	12	10	90	1728	6500	4772
Case 3	150	12	15	135	2592	9750	7158
Case 4	200	12	20	180	3456	13000	9544

*Average Entry Fee 65/ Cat for 12-Ring Show Judge Fee-1.60 per Cat

Business Case for Judges - Current

	#Entryes	#Ring(AAB)	Judge Fee
Case 1	60	1	66
Case 2	100	1	110
Case 3	150	1	165
Case 4	200	1	220

Business Case for Judges - Proposed Change

	#Entries	#Rings(AAB)	10%Absentees	ActualCatsJudged	F 1,60	Difference	in%
Case 1	60	1	6	54	86,4	20,4	30,91
Case 2	100	1	10	90	144	34	30,91
Case 3	150	1	15	135	216	51	30,91
Case 4	200	1	20	180	288	68	30,91

Standing Rule 2014.1 を改正する。

注:この変更は 2023 年 5 月 1 日から適用されます。

2014.1.1 ジャッジ料

~~審査するショーの種類ではなく、審査員のステータスに基づき、カタログに記載された競技対象作品数に基づく。~~

審査するショーの種類ではなく、ジャッジのステータスに基づき、以下のスケジュールに従って料金を支払います。

2014.1.1.1 Approved Allbreed Judge・審査 1 頭につき \$ 1.10 → → **\$1.60**

2014.1.1.2 Provisional Allbreed Judge および ゲストジャッジ - 審査 1 頭につき \$0.85 → → **\$1.25。**

2014.1.1.3 Approved Specialty Judge - 審査 1 頭につき \$0.65 → → **\$0.95。**

2014.1.1.4 Probationary Specialty Judge - 審査 1 頭につき \$0.55 → → **\$0.80**

2014.1.1.5 Household Pet Allbreed - 審査 1 頭につき \$0.85 → → **\$1.25**

2014.1.1.6 Household Pet Specialty - 審査 1 頭につき \$0.55 → → **\$0.80。**

Rules Committee のコメント

提案された変更の影響を受ける他の規則と、意図された意味を伝えるために適切な用語が使用され通して用語の統一性が確保されるようにすること ”について

Rules Chair 注釈

2014.1.1 の文言は、2014.1.1.1 等の変更と整合するように Rules で修正された。

2. 提案の利点(またはそれ以外)についての意見(Standing Rule 106.4.1.1 による「提案を審査する」)。

(A) 何年も前までは、ジャッジの報酬は、エントリーした猫ではなく、審査した猫で支払うというルールでした。クラブが計算しやすいように変更されたのですが、クラブはエントリーした猫ではなく、参加した猫に対して支払われるとの指摘がありました。現在、TOES ではエントリーされた猫で計算しているので、変更する場合は個別に計算する必要があります。料金の値上げにはメリットがあると思うが、これほど大きな値上げは成功する可能性が低いと思う。何年か前に\$1.10 に値上げするまでは、値上げが提案されるたびに否決されてきました。私の記憶では、その時の提案は AAB を 1.25/猫にし BOD がそれを打ち消したのです。さらに-HHP のみのジャッジはまだいるのか？

(B)このような料金の大幅な引き上げは、良いことだと思いますが、時期が悪いとしか言いようがありません。また、ジャッジに支払う予算は、ジャッジがすべてのリングの猫を数えるよりも、猫の総数の方がずっと簡単です。審査する側も、支払う側も楽になるのです。Judging Committee では、リングやスクールのインストラクターにもう一步踏み込んで、ライセンスを取得するための努力に見合った報酬を支払うことも検討されています。

(C) (B)に賛成です。しかし、45%は多くのクラブにとって難しいので、2023 年からは最大 15%にすることを提案します。私が本当に必要だと思うのは、インストラクターが自分のリングでの 트레이ナー各々に対する料金で、これはクラブではなく TICA が負担すべきものです。新しいジャッジを教育するたびに、それは協会としての TICA の最善の利益のためであり、また、インストラクターになるための我々の AAB ジャッジの献身と努力を認識する必要があります。

(D)料金の値上げは、クラブにとって負担が大きく、本当にひどい時期だと思います。多くの会場や地域ではまだ外部からの入場が制限されており、今はすべてのショーがリスクとなる。(

(E)この場合、クラブの会計係は、ジャッジが審査を終えた後でないと支払いの小切手を作成できないことになる。

(F)規則案は適切に書かれているが、経済が不安定なこの時期に 45%の引き上げを要求するのはタイミングが悪いと思う。インフレに合わせた調整というのは、無理な話ではないと思いますが。一度に大幅な値上げを要求する必要がないように、例えば 5 年ごとに定期的に見直すというような注意書きを加えてはどうでしょうか。

(G)私は、他の方々と同意見です。特に、あまりにも急な値上げなので、ハンドリングの数ではなく、エントリーされた猫の数にかけべきと思います。また、2023 年 5 月からの料金設定というのもいいですね。そして、ライセンスを持っているリングインストラクターにもっと報酬を払うというインセンティブは、とても良いアイデアだと思います。私は、Household Pet の料金を調整することはありません。また、5 年ごとに見直すという(F)のアイデアもいいです

提案 2014.1.1.1 Ring/School Instructor – 猫1頭につき\$1.40

2014.1.1.2 Approved Allbreed Judge & Licensed Guest Judges – 猫1頭匹につき \$1.25

2014.1.1.3 Provisional Allbreed Judge & Guest Judges -猫 1 頭につき \$1.10

2014.1.1.4 Approved Specialty Judge - 猫 1 頭につき \$.0,90

2014.1.1.5 Probationary Specialty Judge – 猫 1 匹につき \$.75

2014.1.1.6 Household Pet Allbreed – 猫 1 匹につき \$.85

2014.1.1.7 Household Pet Specialty –猫 1 匹につき \$.55

(H) ジャッジ料値上げの提案はメリットがあると思うが、「エントリーした猫」ではなく「審査した猫」を加えるという複雑さには賛成しかねる。

(D) 一方では、審査した猫に基づく手数料は有益だと思いますが、出陳者のグループが保留を決めた場合、ジャッジの手数料を下げるすることができます。

(A) (D)のこれは いいと思う

(E) ジャッジには、昇給と X 年ごとの見直しが必要だと思うがこれは Judging Committee の仕事でしょうか？

(I) これまでのコメントのほとんどは、クラブや出陳者の視点からのものでした。私は、ジャッジの視点からこれを見たいと思いました。私の理解では、ジャッジ料の目的は、ジャッジが自宅を離れることで発生する旅費以外の経費、例えばペットシッター料などを相殺するためのものだと思います。このような経費も、年々インフレで上昇しています。ジャッジは、ジャッジになるために自分の時間とお金を費やしています。ジャッジを続けるために、TICA の年会費以上に私腹を肥やすことは不合理です。提案の通り、増加するコストは 1 リングあたり 50 セント(またはそれ以下)です。つまり、1 つのショーにつき、エントリー 1 頭につき最大 10 ドルで、リング数が少ないショーではそれ以下となります。私は、クラブがその費用を出陳者に全額負担させたくないこと、出陳者がその増額分を支払いたくないことを理解します。それでも、ジャッジ料を上げることはメリットがあると私は思います。ジャッジには、その報酬の全部または一部をクラブに寄付するという選択肢が常にありました。しかし、報酬が増加した場合、それが普通であると思わすべきではない。エントリー審査 に変更する必要があるのかどうか、よくわかりません。クラブへの影響を軽減するための提案者による妥協案と見なしました。おそらく、若干の値上げと、現在のエントリー数のカウント方法を維持することが良いのでしょう

(J) 増加額は board の議論事項であるが、ジャッジした料金をベースにするのは、現在のプロセスより意味のある利点がない悪夢である

TOYBOB BREED GROUP TB/TBL	
<p>The Toybob (TB) is a small cat with proportionally balanced features, medium musculature, and bone structure. The cat's bobbed tail is owed to a natural mutation(s) found in feral native cats from Russia. The Toybob temperament is very gentle and the cat amenable to handle. Toybob Longhair (TBL) is the semi-longhair version of the breed.</p>	
<p>HEAD 40 points</p> <p>Shape 4-10</p> <p>Eyes 10</p> <p>Ears 4-4</p> <p>Chin 3</p> <p>Muzzle/ Nose / Chin 3-6</p> <p>Nose 4</p> <p>Profile 7-8</p> <p>Neck 2</p>	<p>face to mid muzzle, to create a slight to no whisker pinch and ending in a round, modified square shaped muzzle. Jowls are prominent in adult males.</p> <p>Ears: Medium tall, high-on-the-head, one ear width apart and wide at the base. Ears must be as tall as wide in length, with rounded tips and slightly tilted forward.</p> <p>Eyes: Eyes are big must be large, rounded with an open expression, oval and with a slight upward slant. The line across the corners of the eye leads to the outer base of the ear. When side-on-eyes can appear larger and round. The big-eyed expression is what gives the Toybob its sweet-faced look.</p> <p>Eye Color: Traditional eye color is related to coat color, pointed divisions are blue; sepia is gold/green, mink is blue/green eyes.</p>
<p>BODY 40 points</p> <p>Torso 10</p> <p>Legs/ Feet 4-6</p> <p>Feet 2</p> <p>Tail 10</p> <p>Bones 7</p> <p>Musculature 7</p>	<p>Eye Color: Traditional eye color is related to coat color, pointed divisions are blue; sepia is gold/green, mink is blue/green eyes.</p> <p>PROFILE:</p> <p>Distinctly Gently curved profile with a dip from the forehead to the nose at the eye-middle level. Definite stop is not allowed. Full forehead is preferred.</p> <p>Muzzle/ Nose: Moderately short, rounded, modified square shape in proportion to the face. Nose is Roman, square shaped in appearance with gently rounded contours and a smooth transition into the cheek bone. Nose can be straight or with a slightly curved bridge.</p> <p>Chin: Strong with moderate depth, so as to still be in line with the nose tip. Chin must be neither receding nor protruding.</p> <p>Neck: Short and Thick. Allowances must be made for longer necks in kittens.</p>
<p>COAT 20 points</p> <p>Length 5</p> <p>Texture 10</p> <p>Color/Pattern 5</p>	<p>COAT:</p> <p>Color/Pattern: All</p> <p>Texture: length ---</p> <p>TB: Coat is short, soft and slightly plush to the touch, dense but not thick. The coat is rather resilient and not close lying to the body. The coat has developed undercoat where the topcoat is almost the same length as the undercoat. Stomach hair is shorter and softer, while fur texture on the spine area is slightly thicker and coarser. Kittens can have a somewhat woolly coat.</p> <p>TBL: Coat is semi-longhair in length and softer than the short-coated variety. Topcoat is slightly longer in length than the undercoat but also giving it a plushy but not too thick feel through the entire body. The coat has very minimal ruff if any over the whole cat's body with visible ears and feet furnishings. No ear tufts.</p>
<p>CATEGORY: All</p> <p>DIVISIONS: All</p> <p>COLORS: All</p> <p>PERMISSIBLE OUTCROSS:</p> <p>Russian-Domestic Shorthair and Longhair with similar phenotype and no structural mutation. The outcross policy is currently permitted during the breed development and recognition process to ensure the genetic soundness of the breed.</p> <p>HEAD:</p> <p>Shape: Medium sized modified wedge with rounded contours and a flat plane above the eyebrows. Head is slightly longer than broader with rounded cheekbones curved inward from</p>	<p>Feet: Rounded with elongated toes on the hind legs.</p> <p>Tail: Bobbed with kinks and curves in any combination but also may be almost straight. The tail minimum length is 4-inch minimum-toe-vertebrae at least two vertebrae to the maximum length (without stretching) down to the hook. Distal bone may gently be felt to be pointed, not blunt.</p> <p>Musculature: Firm, solid and well developed with clean lines and no bulging appearance.</p> <p>Bones: Strong, moderately refined and proportional to the body. Neither heavy nor delicate.</p> <p>COAT:</p> <p>Color/Pattern: All</p> <p>Texture: length ---</p> <p>TB: Coat is short, soft and slightly plush to the touch, dense but not thick. The coat is rather resilient and not close lying to the body. The coat has developed undercoat where the topcoat is almost the same length as the undercoat. Stomach hair is shorter and softer, while fur texture on the spine area is slightly thicker and coarser. Kittens can have a somewhat woolly coat.</p> <p>TBL: Coat is semi-longhair in length and softer than the short-coated variety. Topcoat is slightly longer in length than the undercoat but also giving it a plushy but not too thick feel through the entire body. The coat has very minimal ruff if any over the whole cat's body with visible ears and feet furnishings. No ear tufts.</p> <p>GENERAL DESCRIPTION:</p> <p>The Toybob is a naturally small, bobtailed cat primarily developed in the Rostov and Ural Regions of Russia. The Toybob name is derived from two words, where "Toy" is meant to describe a playful small-sized cat breed, and "bob" refers to a bobbed tail. Toybobs have compact, muscular bodies with short bobbed tails consisting of several kinked vertebrae. The Toybob body should not look nor feel refined or delicate. The cat's bobbed tail is unique to the breed and due to a spontaneous mutation(s) that appeared in</p>
	<p>feared native cats to Russia. The Toybob has a pleasant temperament and is affectionate while also obedient to their human companions. Despite their small size, they are active, playful and agile.</p> <p>ALLOWANCES: Jowls in adult males, males smaller than females. White spotting on feet and lockets in all color classes. Darker coat shading in the pointed coat divisions. Slightly softer coat texture on other than pointed coat divisions.</p> <p>PENALIZE:</p> <p>TB: Small eyes-Longer necks in adults- Too foreign body type- Over-sized cat- Tail length past hook- Flare ears- Too big ears</p> <p>TBL: Small eyes-Longer necks in adults- Too foreign body type- Over-sized cat- Tail length past hook-Long-Persian-like-coat- Same as for the short-hair- Tufts on ears</p> <p>WITHHOLD ALL AWARDS (WW): No flexibility to the tail-Crossed eyes- Complete absence of tail vertebrae.</p> <p>DISQUALIFICATION (DQ): Any sign of the "Domestic Blue-Eyed" mutation (e.g. Opal-Aquatic-Russian-Adult) Topsetly: Blue eye color in cats other than pointed, solid white or bi color divisions- Short-Munchkin-like-legs- Short dwarf-like legs- Docked tail- Undernourished or frail.</p> <p style="text-align: center;">★★★★★</p> <p>Temperament must be unchallenging; any sign of definite challenge shall disqualify. The cat may exhibit fear, seek to flee, or generally complain about but may not threaten to harm in accordance with Show Rules, ARTICLE SIXTEEN. The following shall be considered mandatory disqualifications: a cat that bites (216.10), adult whole male cats not having two descended testicles (216.11), cats with all or part of the tail missing, except as authorized by a board approved standard (216.12.1), cats with more than five toes on each front foot and four toes on each back foot, unless proved the result of an injury or as authorized by a board approved standard (216.12.2), visible or invisible tail tufts if Board approved standard requires disqualification (216.12.4), crossed eyes if Board approved standard requires disqualification (216.12.6), total blindness (216.12.8), markedly smaller size, notch keeping with the breed (216.12.9), and depression of the sternum or unusually small diameter of the rib cage itself (216.12.11.1). See Show Rules, ARTICLE SIXTEEN for more comprehensive rules governing penalties and disqualifications.</p> <p style="text-align: right;">Toybob Breed Group TB/TBL</p>

Rules Committee Comments on Toybob Standard Change

Toybob Standard 変更に関するルールコミッティーコメント

概要

Rule Committee は、Toybob ブリードの Breed Standard を変更するための本申請を検討しました。

New Breed,として、Board で承認されれば、この変更は直ちに有効となります。ワーキンググループは、これが有効になる最初の数週間の間に開催されるショーで、ジャッジに新しいスタンダードを周知させるよう助言します。このスタンダードは Genetics Committee でも検討されており、は決定を下す前に Genetics Committee に助言を求める必要があります。変更の根拠は、以前 2020 年の Annual で提供されたもので、以下に再掲します。ルールの観点から、本規格は Committee により承認される。

コメント

メンバーの一人がこうコメントしています。“Penalize ”の項では、次のように言うかもしれません。耳が大きすぎるまたは曲がっている。そして、TBL ではこう言うでしょう。TB の罰則に加えて、耳のタフトも罰則の対象です。コメント 長毛種はみんな耳毛が生えてるんじゃない？そして、Allowances の下。ダークコートのシェーディングはボディカラーに適用されるのか、それともヒップなのか、ポイントなのか？また、ノーズ／マズル(プロファイルはその上に定義されているので、プロファイルの話ではないのですが)についても混乱しています - ノーズは直線でも、少しカーブしたブリッジでも良いと書いてあります - これはどういう意か？

そして、このバージョンではあまり変わっていませんが、DQ の下にある “Undernourished or frail” – これはセクション 16 でカバーされていないのでしょうか、またすべての猫の一般的な状態なののでしょうか？ 本当に必要なのでしょうか？

根拠となるもの

これは、関連する見出しの下に、規格の各変更の理由を記載しています。現在は規格書から削除されているため、2020 年に受領した PDF 規格書から一字一句転記されている。

説明: 土台となる猫がロシア領で生まれたことから、feral という単語を native に変更。

ポイント: ポイントの統合 Head と Body の表記を変更・統合し、審査時の点数計算を容易にしました。

アウトクロス: アウトクロスを許可する。Toybob tail の変異を確実に残したいので、構造変異は加えなかった。

目の説明: breed committee、ジャッジからの意見として、大きく丸みを帯びた形状を追加。

プロフィール: 以前はなかった表現として、「優しく、豊かな額」が好まれるように変更しました。

マズル／ノーズ: マズルと鼻はマズルをより明確にし、他の associations の Toybob ブリードのスタンダードと統一するために、特別な記述を追加した。

トルソー: 望ましい胴体の形状に近づけるため、より詳しい説明を加えた。

脚部: ボディとの全体的なプロポーションに対応するため、脚部に説明を追加

耳: 「頭部が高い」は、次項のプロポーションと重なるため、削除

テール: Tail Length (尾の長さ) の記述から、インチサイズを削除し、より計測しやすい key checks. に置き換えた。また、最後の文章は、ジャッジが尾をあまり感じたり、引っ張ったりしないようにするために削除された。さらに、docked tail の項目は失格の項目で扱われることになりました。

ペナルティ : 子猫が成長する過程で、目の大きさが変化することがよくあるため、小さな目を削除した。望ましい目の大きさは、目の説明ですでに説明されている。Flare ears は、猫の頭が Thai/ Oriental の Flare ears の影響を受けてはいけないということを、より明確にするために追加された。

欠格事項: 過去に Ojos Azules に関連した新規の青い目の突然変異は、品種に直接言及するのではなく、一般的な記述に移された。マンチカンの単語を削除したのと同じです。

許容範囲: 他の色のコートにも若干のバリエーションを追加